

act1

○仙台市 南町通り付近 昼

人通りは少ないが私服姿の若者や家族で歩く人達が仙台駅方面へ向って歩いている。

人の流れに逆らうように二十代過ぎの男性が母親に手を引かれて歩く姿が見える。
横断歩道を母親は急ぎ足で渡ろうとしているが男性の方はマイペース。

母親は若い頃は美しかったであろう外見。

白いワンピース、笑顔ではあるがマリア様の像が動いているような印象をうける。

男性は中高校生が親に買い与えられたような紺のデニムパンツにブルーのチェックシャツ、ノーブランドのスニーカー。

二人はビルの中に入っていく。

act2

○仙台市 芸能事務所 レッスンスタジオ 昼

奥に長テーブルとパイプ椅子。

テーブルの前に三脚に備え付けられたデジカメ。

荏原とチーフマネージャーが席に着いている。

入り口付近にパイプ椅子があり座っている親子。

荏原は立ち上がり親子の方へ歩いていく。

荏原：エントリーシートは記入されましたか？

母親：はい、終わりました

荏原：では、こちらにどうぞ

親子をバミってある位置へ案内する。

席に座る荏原。

チーフ：ではオーディションを始めます。えー吉岡さん？

母親：はい、吉岡拓真と申します

落ち着きがない拓真。

シャツの裾を引っ張ったり、何か呟きながら笑っている。

人の目を見ず、視線は宙を見ている。

チーフ：拓真君の目標は？

拓真：…

チーフ：好きな俳優やアーティストはいますか？

拓真：…

母親：拓真は絵や写真等が好きでいつも見えています

チーフ：そうですか。どんな絵や写真が好きですか？

母親：動物や風景の絵がー

チーフ：お母さん、私は拓真君に聞いているんです。本人に答えさせて下さい

母親：拓真はコミュニケーションを取るのが苦手で

チーフ：人と話せない子がこういう場所でレッスンしてデビューを目指すのは難しいんじゃないですか？

母親：拓真の父親がこういった場所でコミュニケーションを取る訓練をした方が良いとの勧めもありまして、本日オーディションを受けに来た次第です

チーフ：とは言ってもね、ここは訓練校じゃないからー

荏原：拓ちゃんは何の動物好きなの？

拓真：うーん、猫と犬

拓真は手を握ったり開いたりしながら答えている。

荏原：オレも犬好きだよ。それとね、海で写真を撮るのも好きなんだ

拓真：青だね。青…青

荏原：拓ちゃんは青好きなの？

拓真：うん、青好き。青い人も好き。緑の人と青の人が好き

荏原：青の人？

拓真：そうだよ、あなたも青の人。ずっと青

荏原：昨日飲みすぎたかな。チーフ、オレ顔色悪いですか？

チーフ：いつもと変わりません

母親：拓真は人に色がついてるって言うんです

荏原：へえ…オレは青色なんですね

母親：拓真にはオーラのようなものが見えているんだと思います

荏原：青のオーラを身に纏う男…

母親：音楽や声にも色がついてるって言います

チーフ：わかりました。ではオーディションの結果は後日メールか電話にてお知らせ致します。連絡がなかった時はご縁がなかったということで

母親は拓真を立ち上がらせる。

母親：本日はお時間を作って頂きましてありがとうございました。宜しくお願い致します

拓真は楽しそう。

荏原：拓ちゃん！このおじさんは何色？

拓真：き…黄色…おじさんは黄色

チーフ：おじさんって…

荏原：昨日カレー食ったんすか？黄色は好き？

拓真：嫌い、怖いから…黄色は怖い

荏原：怖い顔してますもんねー

チーフ：荏原先生！

母親：では、失礼します

一礼してスタジオを後にする二人。

荏原：またね、拓ちゃん！

荏原が手を振ると手を振り返す拓真。

act3

○仙台市 芸能事務所 事務所内 夜

チーフと荏原が隣り合って座っている。

それぞれのデスクにノートパソコン等が置いてある。

荏原は映画雑誌を読んでいる。

本の中には苦難を乗り越えた俳優たちという表題と共に、トム・クルーズ、キアラ・ナイトレイ、オーランド・ブルームなどの名前が挙げられている。

チーフのスマートフォンが鳴る。

チーフ：お疲れ様ですー、はい、はい、先日いらした、はい、承知致しました。もちろんです。荏原先生のクラスに入って頂きます。はい、ではまたはい、失礼致します

チーフはスマートフォンを切り、じろりと荏原を見る。

チーフ：この前の拓真君覚えますか？

荏原：ああ、あのオーラの子ですよ？

チーフ：社長にオーディションの動画を送ったんだけど…合格にしてくださいって

荏原：へえー、社長、理解あるじゃん

チーフ：あれが合格なんて…ここは絵画教室写真教室でもなく芸能事務所なのに…レッスン生として受け入れるって

荏原：でも芸術に興味があるってことはいい事じゃないですか。演技だって歌だって絵だって芸術ですよ。表現形態が違うだけじゃないですか

チーフ：でもさ

荏原：…偏見ですか？

チーフ：いや、そういうことじゃなくて！

荏原：人と違う感覚を持っているって大事なことですよ。拓ちゃんだけでなく、他のレッスン生達にも良い影響があるかもしれないですよ

チーフ：荏原先生のクラスにって社長は言ってたけど、ちゃんとレッスン出来ます？他の生徒達に迷惑をかけずに

荏原：いつもと同じですよ

チーフ：大丈夫なんですか？

荏原：…でも、社長が自ら合格にしろって連絡よこすなんて…まさか…社長のこれの、子だったりして

小指を立てる荏原。

チーフ：それはないでしょ。いくらなんでも…でも社長自ら合格させろなんて初めてなんだよなあ…

荏原は時計を見てチーフの肩をたたく。

荏原：じゃあ、私は帰ります！お疲れ様でした！

チーフ：ああ、お疲れ様でした

チーフは自動ドアから出ていく荏原の後ろ姿を見つめる。

チーフ：全く呑気なもんだよ……オレも終わらせて帰ろっ

act4

○仙台市 芸能事務所 スタジオ 昼

スタジオ内では演技のレッスンが行われている。

荏原は長テーブルにパイプ椅子に座っている。

レッスン生達はその前に座り、順番がきたら前に出てメニューを行う。

拓真が前に出る。

鈴木はため息をつきながら前に出る。

鈴木：この人大丈夫なんすか？

座って待機しているレッスン生の玲奈が鈴木を睨む。

荏原はその表情に気づく。

荏原：決めるのは君じゃないよ

鈴木：違う人と組みたかったなあ

荏原：それも君が決めることじゃない。じゃあ、背中合わせになって

大きく手を叩く荏原。

※レッスンシーンではマイズナーテクニックのメニュー、レレペテーションを行っている。

見たままを相手に伝える（ワンワード）

同じ言葉を繰り返している二人。

拓真は相手の目を見られないでいる。

なかなか言葉を返すことが出来ない。

突然鈴木がトレーニングを中断する。

鈴木：やってられないですよ、この人とは

荏原：誰が勝手に止めて良いって言った？

鈴木：でも、この人ー

荏原：現場ではな、監督以外シーンをストップさせる権限はないんだよ。何勝手な判断で俳優がストップさせてんの？

鈴木：…

荏原：いつも言ってるけど、そのシーンでその演技が良いか悪いかを判断するのは監督、舞台なら演出家だ

不貞腐れた態度をやめない鈴木。

鈴木：でも、彼はこっち見ないじゃないですか？それでどうやってレペテーションするんですか？

荏原：レペテーション、レペテーションって覚えてたの言葉を自慢げに話すんじゃないよ

鈴木：はい

荏原：ハツカネズミと人間とかアイ・アム・サムとか見たことある？

鈴木：ないっす

荏原：俳優になりたいんでしょ？

鈴木：はい

荏原：見るのも勉強でしょ…

鈴木：…

荏原：君は誰かに電話したりする？

鈴木：します

荏原：その時は相手の顔見れてんの？見れない時はどうしてんの？

鈴木：聞いてます

荏原：だろ？相手の声色やトーン、色々聞いて感じてるじゃん

鈴木：…

荏原：人と話さって、見るし、聞くし、感じるんだよ。それが人間でしょ？マイズナーもアドラーも役として生きるには？っていうところへのアプローチの方法じゃん。マイズナーやったから、メソッドアクティングやったからって良い訳じゃないでしょ。それをどう使うかってことが大切なんだよ。確かにねマイズナーを教える人の中には本能的になれって言って攻撃させ合うレペテーションやらせる人もいるよ。でもオレは本能ってのは奪うとか争うとかだけじゃなくて、愛するとかそういう部分も本能だと思うわけ。君はどうだった？

鈴木：ずっと攻撃してました

荏原：セリフってね、行動なんだよ。戯曲っていうのは肉体で表現することを前提に書かれてんだよ。マイズナーも言ってるけど。相手とやり取りしてたけど攻撃してたわけでしょ？オレは攻撃することが悪いと言ってるんじゃないよ。ただ、君はオレが手を叩く前から相手を決めつけてたでしょ？

鈴木：はい

荏原：相手から受け取って、その瞬間に起きた衝動で演技するトレーニングとしてこのレペテーションをオレはメニューにいれてるのね。セリフはあるけど即興性が大切だってこと。わかる？

鈴木：ああ、なんとなく

荏原：なんとなくか、それでもいいよ。シーンならそれも良い。役には「目的」があるからね。でも今やってるトレーニングには「目的」に向って貫通行動をしようということに重きを置いてるんじゃないく、相手から受け取って起きた衝動を表現する…「その瞬間を生

きる」っていう感覚をつかんでほしいわけよ。背中合わせになって合図で振り向くっていうのはニュートラルで始めてくださいというこっちの意図なの。ニュートラルってのはゼロじゃない 50 なの。好きにも振れるし、嫌いにも振れる…君は相手を決めつけてたから、君も拓ちゃんが見えてないんだよ。攻撃することに酔ってて相手が見えてない。

鈴木：拓はどうなんすか

荏原：拓ちゃんね…緊張した？

頷く拓真。

荏原：慣れてくるから大丈夫だよ

少し嬉しそうにする拓真。

荏原：彼の中ではちゃんと衝動は起きてるよ。でも

拓真：で、でも

荏原：思考回路が通っている

鈴木：なんすか、それ

荏原：上手にセリフ言おうとか考えるだろ？

鈴木：普通じゃないすか？

荏原：衝動的にセリフが言えてないってことだね。セリフは行動だって言ったでしょ？上手にコップ持とうとか考えないでしょ

鈴木：…

荏原：だんだんわかるようになるよ。拓ちゃんはうまく話そうとしちゃった？

拓真：はい。考えて、話さないって母さんに怒られます

荏原：ここでは考えて話さなくていいよ

拓真：いいのですか？

荏原：思ったこと言いな

拓真：やった、あ、あ、ありがとうございます

時計を見る荏原。

荏原：じゃあ、時間なんで今日のレッスンはここまでにします！お疲れ様でした！

生徒達：お疲れ様でしたー！

後ろを振り向き伸びををする荏原。

act5

○仙台市 芸能事務所 スタジオ内 ロッカー兼控え室

室内には奥のロッカーで玲奈、鈴木、手前のロッカーで拓真が帰り支度をしている。

鈴木：あーあ、今日は誰かさんと組まされるし、そのせいで先生にも怒られるし、ついてねえなあ

玲奈：やめなよ

拓真はシャツのボタンがなかなか閉められない。

鈴木：辞めればいいのに。シーン稽古に入ったらセリフどうすんだよ。覚えてこれんのかよ？ねえ、拓ちゃん誰のこと言ってるかわかる？嫌味はわかるの？

玲奈：いい加減にしろよ！

玲奈：拓ちゃんが何か悪いことしたかよ？

鈴木：オレに迷惑かかったろ！

玲奈：お前が未熟なんだろ？先生の話聞いてなかったのかよ？

鈴木：依怙臆盾だろ？弱いものの味方して自分に酔ってんだよ

玲奈：お前はちゃんとセリフ覚えてくんのか？

鈴木：当たり前だろ！

玲奈：私は文字が読めねえんだよ。文字が読めねえから台本見てもセリフ覚えられねえんだよ…けどなオーディションの時、先生に、読んで覚えられないなら聞いて覚えれば良いんだよって…海外ではそういう中でも有名になった俳優がいっぱいいるって…大変かもしれないけど諦めるなって……お前と私で何が違うのかよ？

鈴木：違わねえよ…

玲奈：じゃあ私と拓ちゃんとで何が違う？

鈴木：……

玲奈：言えよ…私とお前が変わらないなら、拓ちゃんとお前だって何も変わらねえよ…言ってみろよ…お前と拓ちゃんだって何も変わらねえだろ！

鈴木の胸ぐらにつかみかかる玲奈。

拓真：止めて下さい…ボクのせいだ…いつもみんなを怒らせちゃう

拓真はボタンが閉められずイライラしてくる。

玲奈：違うよ、拓ちゃんのせいじゃないよ

拓真：わかるんだ…ボクがバカなせいで…母さんと父さんも…

ロッカーを開けっ放しで控え室を飛び出していく拓真。
荷物は置きっぱなし。

玲奈：拓ちゃん！

鈴木：ほっとけよ！

玲奈：みんなと同じに出来なきゃ夢を目指しちゃいけないのかよ！

act6

○仙台市 芸能事務所 スタジオ 同時刻

長テーブルで書類を書いている荏原。
バーンという音と共に控え室から出ていく拓真。
急いで控え室に行く荏原。
控え室の中では玲奈が鈴木 of 胸ぐらを掴んでいる。

荏原：おい、やめるやめる

二人を引き離す荏原。

玲奈：拓ちゃんが…飛び出して行っちゃった

床に拓真のリックサック。

荏原：ちょっと行ってくる！

拓真の荷物を手に持ち外にかけて行く荏原。

玲奈：私も行く！

鈴木を突き飛ばし、荏原の後を追いかける玲奈。

act7

仙台市 芸能事務所 ビルエントランス 夕方

荏原は階段で降りてくる。
辺りを見回すが拓真の姿はない。
後ろから玲奈が駆けてくる。

玲奈：拓ちゃんいた？
荏原：いや、いない…駅に向かってみよう
玲奈：うん

仙台市南町通りを仙台駅方面に走る荏原と玲奈。
少し先の横断歩道で信号待ちしている女性がいる。

玲奈：あっ！あの人！
荏原：どうした？
玲奈：緑さん！前に拓ちゃんと一緒に帰った時に緑さんって指差してた！
荏原：ちょっと聞いてみよう

女性に荏原は小走りで近づく。

荏原：すみません、緑さんですか？
女：人違いじゃないですか？
荏原：でも緑さんですよ？
女：だから違います！私、葵です
荏原：緑じゃなく青い？

女性に後から来た玲奈が声をかける。

玲奈：拓ちゃんがあなたのこと緑さんって…
女：あなた達…拓真君のお知り合いですか？
荏原：拓ちゃんが通っている教室の講師をしています
玲奈：私はレッスン仲間！
女：拓真君どうかしたんですか？

act8

○仙台市 仙台駅東口方面 榴ヶ岡公園付近の大通り 夕方

荏原、玲奈、葵は三人並んで歩いている。

葵：古い手口のナンパだなと

荏原：突然すみませんでした

葵：拓真君なら大丈夫だと思いますよ。お付の人達がついているから

荏原：おつきの人？

玲奈：拓ちゃんって意外とお坊ちゃんだったりして！

葵：拓真君のお父さん…どんな人かって聞いてないですか？

荏原：ぜんぜん

葵：拓真君のお父さんは杜の都企画の社長さんです

荏原：そこってイベント企画とかやってる東北でも大きい会社じゃないですか

葵：そうです…でも…

玲奈：あそこって怖い人がやってる会社だから失礼がないようにって言われたことある

荏原：だからうちの社長が電話で拓ちゃんを合格にしろって言ってきたのか！

玲奈：そうなの？うちより大きいもんね、あそこ

荏原：なるほどね、あそこの舎弟…いや…部下の方々が拓ちゃんを見ててあげてるのか

葵：違うんです

荏原：違うの？

葵：拓真君のお母さんがやってる…なんていうのかな…

荏原：拓ちゃんの母さんってなにかやってるんですか？

葵：…とりあえず、拓真君が帰ってるか行ってみましょう…

早歩きになる葵。

荏原と玲奈は顔を見合わせて葵の後を追う。

act9

○仙台市若林区 閑静な住宅地 夜

学園や野球場が近くにあるが、比較的静かな街並み。

一軒家が並ぶ。

大きな門の一軒家。

明かりがついている。

荏原：デカイ家だな

玲奈：やっぱお坊ちゃんなのかな

荏原が玄関の呼び鈴を鳴らす。

玄関の扉が開く。

母：はい

荏原：こんばんは、夜分すみません

母：いつもお世話になっております。あら、葵ちゃんまで！

荏原：偶然会いまして…拓ちゃんは帰宅されてますか？

母：ええ…帰ってききましたけど…

荏原：良かった、忘れ物届けに来たんです

母：本当に申し訳ございません…もし良かったらお茶でも…

荏原：ではお言葉に甘えて

母：どうぞお上がり下さい

中に招き入れられる三人。

act10

仙台市若林区 拓真の自宅 リビング 夜

四人でテーブルに座って話している。

テーブルの上にはお茶やお菓子が並んでいる。

母：そんなことが…

荏原：私が目を離したのが悪かったんです

母：拓真はレッスンに通うようになってから明るくなりました…先生の練習は楽しいって…そして仲良くしてくれる女の子もいるんだって…もしかしてあなたが玲奈さん？

玲奈：はい

母：いつも本当にありがとう。拓真ね、帰ってくるとあなたのことよく話すのよ…可愛くて優しいんだって

玲奈：可愛いだなんて

玲奈は荏原の背中を叩く。

痛がる荏原。

母：とても緑色に見えるって

玲奈：緑って色のですか？

母：ええ

荏原：拓ちゃんはオレのことを青いとか言いますが、どういうことなんですか？葵さんの事も緑さんって呼んでみたいですし

母：オーディションの時にもお話しましたが……あの子には言葉や音楽、そして人に色がついて見えてるんです

荏原：以前伺いました

母：好きな人は緑や青、嫌いな人や拓真に対して辛くあたる人は黄色やオレンジ、ピンク…

荏原：じゃあ私が青、玲奈、葵さんが緑に見えるっていうのは

母：会っていて嬉しいんだと思います。快、不快にも色があって心地よい時は青や緑、不快感や緊張感は黄色やオレンジ…

玲奈：じゃあ先生も私も拓ちゃんには好かれてるんだね…ちょっと嬉しい

荏原：葵さんにも気にかけてもらえて…あいつモテモテだな

玲奈：だって拓ちゃんは純粹だもん…私には拓ちゃんが真っ白なキャンバスに思える

母：あの子が病院で診断を受けてから…あの子の父親は家に顔を出さなくなりました…

葵の顔が曇る。

母は葵に頭を下げる。

母：ごめんなさい、責めてるわけじゃないの。仕方ないわよ…私が悪いの

母：私の前世のカルマが…前世の罪が拓真にきてしまって…

荏原：ぜんせ？

玲奈：前世ってあの…

葵は下を向いたまま、顔を上げない。

母：拓真が病院で診断されてどうしていいのかわからなかった時、あの方に出会って救われたんです…本当に救われました。原因が私の前世にあり、前世の罪を償うためオーラの見える神の子である拓真を私に授けて下さったんです。それが私の前世の罪を償う今世の使命であると…今日もあの方やあの方のお弟子さん達が拓真を家に連れてきて下さった…

荏原：拓ちゃんはどこに？

母：部屋におります。あの方々と一緒に

時計を見る母。

母：そろそろあの方もお帰りになるお時間だと思います

荏原：拓ちゃんに会ってきても良いですか？

母：是非。会って行ってあげて下さい…あの方にもお目通りをなさっては

階段から降りてくる真っ白な布を被った男。

布の下はスーツを着ている。

母は立ち上がり深々と頭を下げる。

葵は座って下を向いている。

男：お母様、私はこれで帰ります

笑顔の仮面を顔に貼り付けている男。

母：いつもありがとうございます。こちらが拓真の先生で…

男：拓真君から聞いていますよ。とても良い先生だと

荏原：良い先生…ですか？

男：あなたの宿命ですよ。あなたの後ろを見ているととても位の高い意識体がついていら
っしゃる…黄金色に輝いています

荏原：拓ちゃんは青って言ってたけど

母：先生とは縁があって出会ったという…

男：勿論です。お導きです。あなたが引き寄せたのです。お母様の信仰心が天に通じてい
る証ですよ

母は感極まった表情。

母：ありがとうございます。これからも一生懸命励んで参ります

荏原、玲奈は見てはいけないものを目の当たりにしてしまったような表情。

葵は下を向いている。

荏原：拓ちゃんと話してきてもいいですか？

母：もちろんです

荏原：玲奈、葵さん、行こう

階段を登りながら、母と男の声が聞こえる。

母：今月も養育費が入ったらすぐにお振込みさせていただきます

男：その思い必ず天に通じます

男は本能的な表情を浮かべる。

act11

○仙台市若林区 拓真の自宅 自室前 夜

荏原がドアをノックする。

荏原：拓ちゃん、開けてくれる？玲奈と葵さんもいるんだけど

少しの間後、ドアが開く。

act12

○仙台市若林区 拓真の自室 夜

白を基調とした部屋。

余計なものはなく綺麗に片付けられている。

中央付近にベットがあり、窓際のスペースに拓真が書いた絵や写真等が飾られている。

玲奈：拓ちゃんの部屋広ーい

荏原：オレの部屋より広いな

拓真は無言で玲奈と葵の手を握る。

玲奈：拓ちゃん

葵は拓真の背中をさする。

葵：拓真を心配して先生とお友達がきてくれたよ

荏原：オレがついてっから心配すんな

葵：拓真の撮った写真見せてあげて

拓真は写真の前へ玲奈を連れていく。

葵：先生…拓真のお父さん…私の父がここに来なくなったのはさっきの人達が入りする

ようになったからです

荏原：葵さんと拓ちゃんは一

葵：姉弟です。私は本妻の娘、拓真は、私の弟です

荏原：そのことを拓ちゃんは？

葵：知っています。私の母は私が小さい時に亡くなりました…拓真とは幼い時から一緒に
…だから拓真君も

荏原：…

葵：今日はあの人一人だけだったけど、あの人達と会うのは拓真も嫌なはずですよ

荏原：あなたはどうしたいの？

いつの間にか荏原と葵の話を聞いている拓真と玲奈。

拓真：ボクがいけないの。ボクが悪いから母さんはあの人達を呼んでる元気もらってるんだ…ボクが我慢すればいいの

葵：拓真と…一緒に暮らしたい。弟と一緒に暮らしたい

拓真：おねいさん

葵の胸に抱きつく拓真。

拓真：ボク、悪い子なんだけど…ボクもおねいさんと一緒にいたい

葵：私も拓真と一緒にいたいよ

荏原は拓真の背中をさする。

拓真はゆっくりと顔を上げ荏原の顔をみる。

荏原：拓ちゃんは悪くないよ

拓真：…ボク

荏原：拓ちゃんは悪くない

拓真：うん

荏原：お前は悪くない

拓真：ボクは悪くない

荏原：悪ない

拓真：悪くない

荏原：あなたは悪くない

拓真：わたしは悪くない

荏原：君はなにもわるくないよ

荏原の胸に飛び込む拓真。

荏原：誰と一緒にいたい？お前が今一番いたい人はだれ？

拓真：おねいさん

葵を見る荏原。

葵は頷く。

act13

仙台市青葉区 杜の都企画 社長室

ソファに拓真と葵が座り、正面に社長である吉岡が座っている。

拓真の手を握る葵。

拓真が強く葵の手を握り返す。

葵：父さん

吉岡：珍しい組み合わせだな。何かあったのか？

葵：あのね…

吉岡：どうした？兄妹で結婚したいってわけでもないんだろ？

葵：私、拓真と一緒に暮らしたい

吉岡：何があった

葵：もうあの人達が出入りする家には居たくないって。私と一緒に暮らしたいって

吉岡：拓真がそう言ったのか？言わされたんじゃないか

葵：自分の口で私に言ったの

吉岡は目を細める。

葵：私も弟と暮らしたい

吉岡は拓真の目を見る。

拓真は目をそらしてしまうが、なんとか吉岡と目を合わせようとする。

父と目を合わせる拓真。

拓真：おねいさんと一緒に暮らしたい

吉岡：わかった

スマートフォンを取り出す吉岡。

act14

仙台市 芸能事務所 スタジオ 夕方

玲奈、セイヤ、ユリ、アヤ、サチコ、たくさんの生徒達がレッスンを受けている。

荏原：今日のレッスンはここまでにします！お疲れ様でした！

レッスン生達：お疲れ様でしたー！

荏原は長テーブルで出席簿等の書類を記入する。

レッスン生達が出口やロッカーに向かう中、玲奈、ユリ、セイヤは荏原の席に近づいていく。

玲奈：先生、今日も拓ちゃん来なかったね

荏原：来なかったな

玲奈：もう拓ちゃん来ないのかな

荏原：…やりたくなればくるんじゃないか

スタジオ入り口から事務員が荏原に声をかける。

事務員：荏原先生、ちょっと社長室まで

ユリ：なんか悪いことしたの？

玲奈：したよ

荏原：してねえから

控室から顔を出すアヤ。

アヤ：わかんないよー

荏原：お前ら、オレのことなんだと思ってんの！？

生徒達：センセー！！

act15

○仙台市 芸能事務所 社長室

社長室のドアをノックして入る荏原。

荏原：失礼しまーす

顔を上げると社長と見知らぬ男と拓真が座っている。

荏原：拓ちゃん！

初めてオーディションで会った時と変わらぬ笑顔の拓真。

社長：私は席を外します。宜しく頼むよ

荏原の肩を叩いて退出する社長。

ソファに座る荏原。

吉岡：はじめまして、拓真の父の吉岡です

荏原：はじめまして

吉岡：先生には拓真だけでなく、娘の葵もお世話をかけたようで

荏原：いや、別に…何もしてませんよ

吉岡：子供は…母親と居るのが一番だと思っていた…例えどんな母親だったとしても。男親は母親には勝てないと…

荏原：わかる気はします

吉岡：だから家も用意して、養育費も多すぎる程送っていたのですが…拓真の為には使われていなかった…

荏原：…

吉岡：娘と息子の希望を、子供の希望を一番に考えて…拓真を引き取ることにしました

拓真は笑顔。

荏原：スムーズに話は進んだんですか？

吉岡：靈感の連中のことですか？

荏原：はい

吉岡：同類の人間とは交渉はし易いんです。相手が何を望んでいるかわかるので

荏原：そうですか？

吉岡：結婚相手が見つからないのは前世のせい、お金に苦しんでいるのはカルマのせい、先生は現世利益とはなんだと思いますか？

荏原：考えたことないです

吉岡：苦しんでいて救いの手を求めてる人間に、これを身に付ければと言って高額なネックレスを売りつける…お布施や祈祷や供養代と言って何百万もの金額を請求する…人間の心の隙間をついて金を要求する…全財産を搾り取る…結局は我々と同じ種類の人間なんですよ…求めているものを提示してやればガタガタ騒いだりしません

荏原：騒いだとしても、黙らせる？

吉岡：そこまでしませんよ…もう若くありませんから

荏原：拓ちゃんのお母さん。なんて言えば良いかわからないですが…この言い方が正解かわかりませんが……何かにすがりたくなる…何かに助けてほしいくなる…自分を責めて責めて…何かに救ってほしい…そういう気持ちもわからなくはないです…

吉岡は無表情で荏原を見つめる。

吉岡：優しすぎるんじゃないですか？この業界で生き残っていけないですよ

吉岡は笑みを浮かべる。

吉岡：そんな先生だから、拓真が好きなのでしょう

吉岡は荏原に手を差し出す。

荏原は吉岡と握手する。

二人の手に拓真は手を乗せる。

吉岡：拓真はこのまま先生のレッスンに通わせます

荏原：拓真君の良さを引き出せるようにこれからも頑張ります

荏原：良かったな、拓ちゃん。また玲奈達と一緒にレッスン受けられるぞ

手を強く振る拓真。

吉岡：今日はこれで失礼致します。またすぐ先生に会えるから手を離さない

手を離す二人。

吉岡：ウチの会社に来て専属の講師になる気はありませんか？それなら私の目の届く所で拓真もレッスンを受けられるし、ウチの方が大手で中央へのパイプも太いですよ…ギャラも東京の講師の倍出します

荏原：…ここには拓ちゃんを待ってる生徒達もいます。私のレッスンを楽しみにしている生徒達もいます…大変有難いお誘いですが…

笑う吉岡。

吉岡：損得で動かない。我々とは別の世界で生きている先生のような方と交渉する方がとても難しいんですよ

荏原：申し訳ありません

吉岡：これだけは覚えておいて下さい…独立なされて、自分で教室をお持ちになる時は遠慮なく言ってください。我が社は総力を上げて先生をバックアップします。世界に通用する演技、広めてください

荏原：その時が来た時は是非

吉岡：私は誰にでもこういうことを言う人間ではありません

吉岡はニヤリと笑う。

吉岡：私はあなたと一緒に仕事がしたい。では、失礼致します

吉岡は拓真と部屋を出る。

拓真は荏原をバイバイと手を振る。

それに応えてバイバイと手を振る荏原。

act16

仙台市 芸能事務所 事務所からレッスン場へと繋がる階段 夜

階段を登る荏原。

レッスン場のドアを開く。

誰もいないレッスン場を眺める荏原。

荏原：自分で教室を開く…か

終